

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 66人

② 算数 66人

5 留意事項

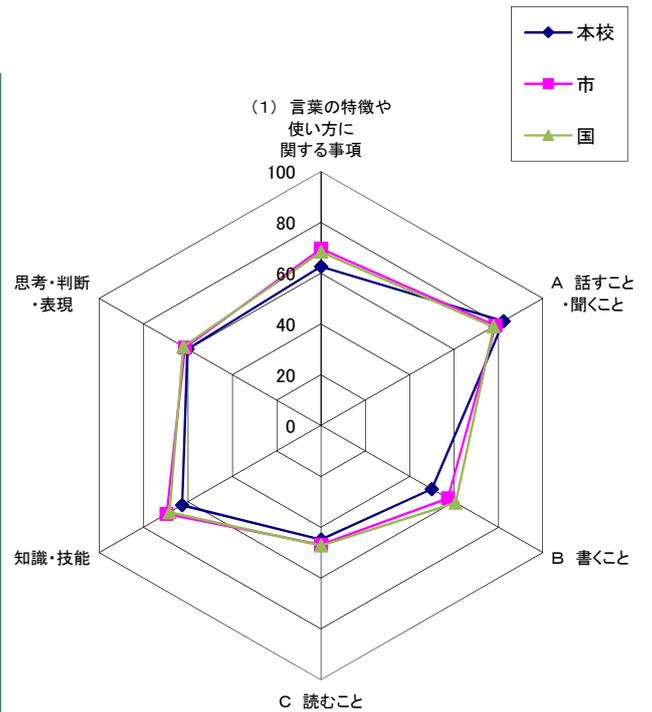
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晁宝小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 62.6 | 69.6 | 68.3 |
| | (2) 情報の扱い方に関する事項 | | | |
| | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | | | |
| | A 話すこと・聞くこと | 82.3 | 78.7 | 77.8 |
| | B 書くこと | 50.0 | 57.3 | 60.7 |
| | C 読むこと | 44.9 | 46.9 | 47.2 |
| 観点 | 知識・技能 | 62.6 | 69.6 | 68.3 |
| | 思考・判断・表現 | 60.2 | 61.4 | 62.1 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---------------------|--|---|
| (1) 言語の特徴や使い方に関する事項 | ○複数の情報を比べる場合の言い方である「～は～より…」と同じ使い方の文を選択する設問や文の中における主語と述語との関係を捉える設問はよく身に付いていた。 ●漢字を文の中で正しく使う設問は全体的に課題が見られ、正答率が低い。また、文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題も正答率が低く、課題が見られた。 | ○文法などの言語指導については、それぞれの教材の中で効果的に使用されている場面を取り上げ、その都度意識的に指導するとともに、習熟プリントなども使用し、文法項目として振り返ることで習熟を図れるようにする。 ・漢字を身に付けるには、反復練習が大切である。授業→宿題→テスト→練習など、一人一人に合った練習サイクルを確立させることで定着を図りたい。また、漢字を使えるようにするためには、反復練習だけでなく、普段のノートや日記、連絡帳などで、意識的に漢字を使う経験が必要である。継続的な指導を進めていきたい。 |
| A 話すこと・聞くこと | ○話すこと・聞くことの領域は、正答率が8割をこえ、他領域と比較して、よく身に付いていた。授業の中で、自分の考えを伝え合う経験を積み重ねてきた成果だと考えられる。 ○スピーチの場面で、効果的な構成を考えたり、資料の目的を考えたり、目的に合わせて資料を選択したりする設問は、いずれも正答率が高かった。 | ・授業の中で、意図的に伝え合い、聴き合う指導が効果を上げているため、今後も計画的に、話し合い活動を仕組んだり、ペアやグループで意見交換をする場面を設けたりすることで、話す・聞く力を伸ばしていきたい。 ・話し合いの目的や相手意識を大切に、相手に効果的に伝えるために、構成や資料を工夫し、実践していく指導を今後も継続していきたい。そのためには、技能を伸ばすだけでなく、互いの立場や意図を理解し、尊重しようとする他者理解の態度も育成していきたい。 |
| B 書くこと | ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題や目的や意図に応じて、理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、正答率がいずれも6割未満と課題がみられた。 | ・意見文を書く際には、基本となる「頭括型」、「尾括型」、「双括型」があり、その特徴や良さにはどのようなことがあるのかを再度復習する。その上で、自分の意見を伝えるために、どの方法を選ぶのかを考え、選択させて、文章を書く練習をすることで、書く力を伸ばしていきたい。 ・文章を書く場を多様に設定し、意見文だけでなく、普段の振り返りやまとめの中でも、どうすれば自分の考えを相手に伝えることができるのかを常に考えさせることで、書き表し方を工夫する力を身に付けさせていきたい。 ・読書指導の中で、多様なジャンルの文に触れ、優れた文章の型を身に付けられるような指導を心がけていきたい。 |

C 読むこと

○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題は正答率が高かった。物語の設定や場面分け、説明文の構成などを確認し、その効果などを丁寧に考えてきた成果だと考えられる。
●目的に応じ、文章と図表を結びつけて必要な情報を見つけたり、目的を意識して中心となる語を見つけ、要約したりする問題は、いずれも正答率が3割以下で、課題がみられた。

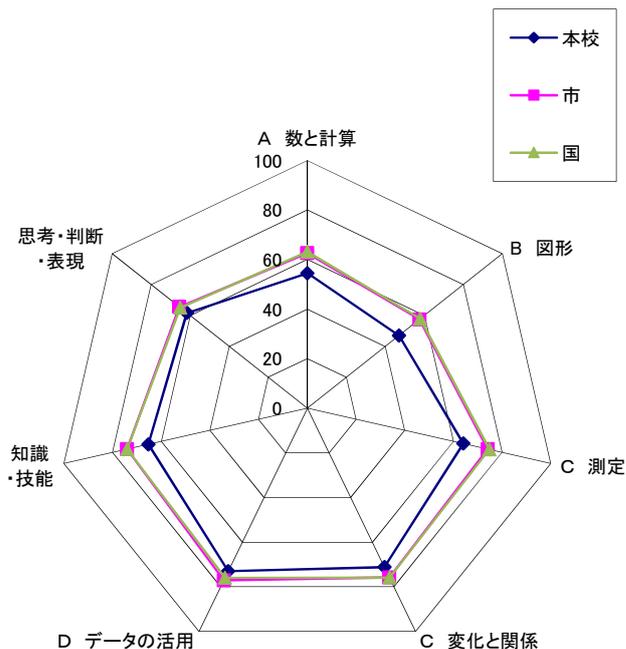
・文章の構成や要点を捉えるためには、主体的に文を読む力を身に付ける必要がある。今後も、自分の知識や経験などと関連付けながら読ませたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら文章を読ませたりといった指導を心掛けていきたい。
・自分の意見を表現させる際にも、非連続型テキストを関連付けて、より効果的に伝える方法などを考えさせる経験を積ませることで、連続型テキストと非連続型テキストを関連付けて読み取る力を高めていきたい。

宇都宮市立晁宝小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域 | A 数と計算 | 54.5 | 62.6 | 63.1 |
| | B 図形 | 47.0 | 57.5 | 57.9 |
| | C 測定 | 64.1 | 74.1 | 74.8 |
| | C 変化と関係 | 71.2 | 75.8 | 75.9 |
| | D データの活用 | 73.0 | 77.1 | 76.0 |
| 観点 | 知識・技能 | 65.3 | 74.1 | 74.1 |
| | 思考・判断・表現 | 61.7 | 65.6 | 65.1 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---------|--|--|
| A 数と計算 | ○日常生活の場面に即して、除法の結果を処理する問題の平均正答率は、全国の平均を上回った。 ●場面から数量の関係を捉えて、除法の式に表し、計算する問題に課題があった。また、記述問題では、無解答率が高くなる傾向がみられた。 | ・基準量を1としたときに比較量が小数である問題を解くとき、数直線を用いて数の位置関係を捉えることに慣れさせたい。 ・自分の考えを説明する場面を増やし、記述式の無解答率を減らしていきたい。 |
| B 図形 | ●三角形の面積の求め方やその三角形を組み合わせた図形の面積を求める問題の正答率が低かった。 ●平行四辺形の面積の求め方を説明し、答えを出す問題の正答率が低かった。本設問は、面積を求める公式に必要な数値が直接示されていないことがつまずきの要因と考える。 | ・組み合わせた図形の面積を求めるとき、感覚的に捉えずに基になる直角三角形の面積の量の保存性や加法性を活用して捉えられる解釈ができるよう復習させていきたい。 ・求積のためにどの部分の長さを測定すればよいか判断できるよう、必要な数値だけが示されない類題を多く解かせたい。 |
| C 測定 | ○速さと道のりを基に時間を求める式に表す問題の平均正答率は、8割を超えていた。 ●図形を組み合わせた図形の面積について量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることが大切であるが、そのことへの理解に課題がみられた。 | ・図形の面積の公式をつくりだす場面では図形を分割して並び替え別の形の図形に変形して面積を求める方法を話し合ったり、面積が2cm ² の図形の一部を移動させながら様々な形の図形を作ったりする学習活動にも十分に時間をかけて指導していく。 |
| C 変化と関係 | ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題の肯定割合は90.9%で全国の平均を4.2ポイント上回った。 ●速さを求める除法の式や商の意味への理解に課題がみられた。 | ・速さを求める除法の式と商の意味を理解できるよう、図を用いて1分間あるいは1時間あたりに進む道のりを求めていることを確かめる活動を入れて、子どもたちが理解しやすくなるように工夫するなどして授業を行う。 |

| | | |
|----------|--|--|
| D データの活用 | <p>○棒グラフの読み取りの問題は、いずれも平均正答率が高かった。</p> <p>○帯グラフから割合の違いが一番大きい項目を選ぶ問題の正答率は全国の平均を上回った。帯グラフで示された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することができていた。</p> <p>●示された数値が二次元表のどこに入るかを選ぶ問題の平均正答率が低かった。データを二次元の表に分類整理することに課題が見られた。</p> | <p>・二次元表の分類整理について、数値がどんな意味を持つのか問題文から読み取れることを整理したり、書き込んだりして理解が深められるよう指導の充実を図る。</p> <p>・統計的に問題解決する力を身に付けさせることができるよう、目的に応じて、データを集め、観点を決めて分類整理し、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取る学習を十分に行う。</p> |
|----------|--|--|

宇都宮市立晁宝小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食をとっていますか」の設問に90%を超える児童が「している」という回答を述べている。これは、各家庭での生活習慣がしっかりしていることが予想され、安心できる結果であるが、さらに高めるために朝食の重要性について広報していきたい。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問に肯定的回答が75.7%となり全国や県の数値を上回っている。学校にタブレットコンピュータが導入されたことからこの設問の重要度は高く、それが高いことはよいことではあるが、さらに数値が高まるよう家庭へ保護者会、学年通信等で広報していきたい。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問では、78.6%の児童が肯定的な回答をしており、全国や県の数値と比べても高い数値を示している。授業や日常において他の意見を尊重する、他の価値観を認めることにつながってくることと考えられるので今後も学び合い、思いやりの指導を重点的に行っていく。
- 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の設問では、肯定的回答として85.7%と高い数値を示している。これは、家庭学習の重要性とやり方が児童に浸透してきたことが予想される。今後も家庭学習の重要性とやり方について支援していきたい。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の回答では、肯定的回答が67.1%と全国、県の数値と比較高い数値を示している。これは、総合的な学習や国語科等において郷土学習に力を入れてきた結果であり、今後も継続して指導していきたい。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の設問では、「当てはまる」の回答では全国、県を上回っているが、「どちらか」といって、当てはまる」の回答を含めた肯定的回答では、全国、県を下回っている。これは、多くの児童が将来に夢を持っているが、不安を感じている児童も少なくないことを示している。今後、キャリア教育を重点化し、中学校への不安を取り除く指導を増やしていきたい。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問では、多くの児童が肯定的回答をしているが、100%を目指さねばならない項目であるので、教科の道徳、教育相談、日常生活指導において徹底して指導、支援をしていきたい。
- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の設問では、肯定的回答が57.2%となり、全国や県の数値を7ポイント近く低い結果となった。このことは、発表の仕方について考えたことが少なく、工夫する内容や教科の理解が低いことが予想される。今後は、発表の機会を増やし、その工夫の仕方等について指導していきたい。

宇都宮市立晁宝小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|----------|--|---|
| 分かる授業づくり | 授業の初めには、めあてを提示し、話し合い活動を取り入れながら考えを深めたり広げたりして学習を進め、最後には学習の振り返りを行う。このような一連の授業を展開し、学習内容の定着を図っている。 | 「5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」について、肯定的回答が78.6%と全国、県と同程度ではあるが少々下回っている。 各教科の平均正答率は、県平均を全体的に下回っている。 |
| 家庭学習の習慣化 | 毎月第一水曜日に「家庭学習の日」を設けたり、学年だよりや懇談会の折に、家庭学習の在り方や習慣化のための親と子の関わり方などについて、保護者に説明するなど、学習の習慣化への意識を高めている。 | 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の設問では、肯定的回答が85.7%と高い数値を示している。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|-------------------------------------|----------|--|
| 発表の仕方について考えたことが少なく、工夫する内容や教科の理解が低い。 | 少人数学習の充実 | 算数科で少人数集団で取り組むことにより、教科の内容理解の支援を厚くし、表現の機会を増やし、発表の工夫の指導も丁寧に行う。 |